

Peace Now! No.12

2024

PeaceNow!Okinawa2024 開催報告



Peace Now!2024のテーマ

対話を通して「つなぎ・広げる」
一人ひとりの想いがはじまり

過去・想い・人のつながりを広げ、
これらにつなげていくための
「対話」を実践していきましょう！

-オキナワ- 獲得目標

- ✓ 沖縄に関するモノコトを実体験を通して知る
- ✓ 対話を通して視野を広げ、平和に対する考えを深める
- ✓ Peace Now!で得たきっかけを身近な人からつなぎ・広げていく

日時 9月3日(火)13:00 ~ 5日(木)12:30

場所 ・沖縄南部
・沖縄県青年会館

参加者 48名

公立はこだて未来大(1)、岩手大(2)、東北学院大(1)、弘前大(2)、山形大(2)、岐阜大(2)、桜美林(1)、京都教育大(4)、近畿大(2)、神戸市外国大(2)、大阪経済大(2)、大阪樟蔭女子大(1)、龍谷大(2)、立命館(1)、島根大(2)、長崎県立大学佐世保(2)、鹿児島大(1)、宮崎大(1)、琉球大(2)、ブロック(11)、連合会(4) ※うち実行委員7名

企画内容～参加者の様子～

00 事前学習会

日時：8月9日(金) 18:30 ~ 20:30 形式：オンライン (Zoom)

参加者：32名 (運営含む) 講演者：琉球大学 山口剛史 先生

Peace Now! Okinawa本番前に、Peace Now!について、また平和教育に関する研究もおこなわれてきた琉球大学の山口先生の講演や「慰霊の日」の平和宣言を聴き「沖縄」について学びを深めました。他の参加者との交流も通して、平和について様々な視点から考え、PN!当日への意欲を高めていました。



他の人たちとの意見交流ができて興味深かったです。
今回の学習会でより深く平和について考えたいなと感じました。

沖縄の今まで知らないことをたくさん学べてよかった。
今日学んだことを知った上で、平和宣言や平和の詩を聞くと、心に染みだ。

企画内容～参加者の様子～

01 フィールドワーク

沖縄戦では米軍が無血上陸を果たしてからおよそ3か月間、各所で地上戦を繰り広げながら、住民も含めておよそ20万もの人が亡くなりました。フィールドワークでは、沖縄戦の歴史的教訓を伝えている「沖縄県平和祈念資料館」をはじめとして、激戦の跡などが残る沖縄県南部を巡り、直接みて、きいて、学生実行委員のガイドとともに過去から現在に至るまでの沖縄の歩みを実感する時間となりました。

1日目 沖縄県平和祈念資料館・沖縄県営平和祈念公園



「戦争をおこすのは確かに人間です。しかし、それ以上に戦争を許さない努力ができるのも私たち人間ではないでしょうか。」というガイドの方の言葉が当時の人の証言などを読んだ後でとても心に残っています。

2日目AM 対馬丸記念館・嘉数高台



学童疎開で生き残った子供たちが箆口令によって友人の死や事件のことを誰にも話せず、1人で抱えていたなんて、子供達にとってどれだけ重い負担だっただろうと思うと心が苦しくなりました。



普天間基地と住宅地の近さに驚いた。途中オスプレイが飛行する様子もみられた。目に見えてわかる危険が身近にあることが衝撃だった。また銃弾の跡やトーチカの抉れた跡をみて当時の激戦を想起し、無理だと思った。

2日目PM 糸数アブチラガマ・ひめゆり平和祈念資料館

ガマであかりが消えた瞬間、あの一瞬ですら絶望を感じたのにあの場に数ヶ月もの間、うめき声や爆撃の音を聞きながら生活していた人たちはどんなに怖く、どんなに寂しかったらと思うと涙が出そうでした。



ひめゆり平和祈念資料館では、当時「ひめゆり学徒」として戦争に動員された女学生の方たちの証言動画を視聴しました。



「死んだ人が運が悪いというのは申し訳ない」という言葉が心に残った。

2日間のフィールドワークを通して感想交流



フィールドワークを通して参加者それぞれが学んだことや感じたこと考えたことを交流しあいました。

教育の怖さを知ることができた。自分と年齢が変わらないか年下の子どもも動員され人生や夢が壊されて行ったことを学んだ。

地上戦の悲惨さはもちろんたくさん感じましたが、過去だけでなく今でもなお米軍基地に関する問題や、沖縄だけでなく世界各国で起きている戦争について考え、感じる事ができた1日でした。



02 企画①うちなーを知る

1日目の夜は、「企画①うちなーを知る」を通して、2日目のフィールドワークで意識して「みる」視点について考えました。

なぜ沖縄で地上戦が行われたのか、当時の人たちは戦前から戦後にかけてどのように過ごしていたのか、時系列順に沖縄戦について当時の思想や状況をイメージしながら学び、沖縄県で今に続く問題についても知る時間となりました。

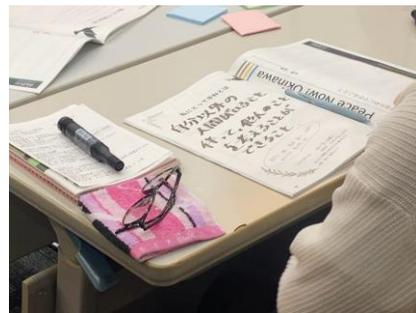
知識だけではなく「**自分事**」として考えることを大切に学んでいきました。またフィールドワークではこの時間で考えた意識したいことをもとにより学びや実感を深めていました。



03 企画②深める

この時間では、企画①やフィールドワークを通して学び、感じたことをもとに、太平洋戦争や今なお世界で起こっている戦争にふれながら、**多様な視点で物事を見て、「平和」について考える**時間となりました。

交流の中では「戦争はどちらが悪いというわけではない」「軍人も住民も生きるために必死だっただけ」といった意見が交わされており、平和とはなにかを深めました。そして最後は一人一人が考える多様な「あなたにとっての平和とは」交流しあいました。

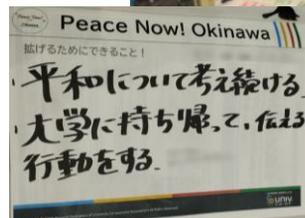


04 企画③広げる

平和は一人では実現し得ないものです。平和を広げ、さらに維持していくためには「Peace Now!」という場で終わるのではなく、行動し続けることが大切です。

この時間では、平和を広げるうえで障壁になることはなにか、そして身近なことからできることはないか、3W1Hに沿って具体的に考えていきました。

さらに今後に続くはじまりの1歩となるように、それぞれが考えた「平和を広げるためにできること」の行動宣言を行いました。参加者はPeace Now! 終了後の平和の維持、広げることに向けて意識を高め合いました。



Peace Now! Okinawa参加者のこえ

Q. 参加してみたの感想・心境の変化

戦争は悲惨だと知っていたが戦争になることはしようがないとも思っていた。しかし、沖縄戦のような歴史・状況を知ってもらうことで、防ぐことができるかも知れないと感じ、しっかりと学びを広げることの重要性を感じた。

思った以上に沖縄戦について知ることができ、考えが深まったと感じる。また、人との意見交換が大切。来て良かったと思う。

たくさん学び、たくさん考え、たくさん話し合うことができた。

Q. 次年度Peace Now!に参加したいと思う人へ

迷っているなら絶対に参加して欲しいです。自国で起こった戦争の実態、悲惨さ、そして今もなお生き続けていることで苦しんでいる方々について知ることは、今の生活を送ることができていることへの幸せや、世界を通じての「平和」を考えるきっかけになります。教科書で学習してきた知識ではなく、実際に現地に行って感じたものは一生物になるはずですよ。

実行委員長より

PeaceNow!Okinawa2024 へご参加いただきありがとうございました。3日間を通して、1番印象に残っていることはなんですか？参加された皆さんが平和について対話を通して考え、深め、広げる一助となっていれば幸いです。

沖縄での学びを通して、過去から今につながっている現実も実感することができたのではないのでしょうか。来年は終戦80年です。つむがれてきた想いを、周りの人に伝え、これから先へ広げていってほしいと思います。「知り・知らせ・考え・話し合い・行動する」という視点を忘れずに、小さなことから行動をはじめましょう！

